



認定特定非営利活動法人(認定NPO)

インド福祉村協会

会報
2010.5.1
Vol.19

India Welfare Village Society News

JPP特集4

<http://iwvs.web.infoseek.co.jp/>

インド福祉村協会

検索

特定寄付金に税制上の優遇措置が認可(ボランティア募集中)

ます。
力をお願いいたし
様のご支援とご協
更なる日本の皆
療は人気があります
頭シラミの無料治
学校での衛生教育、



(アーナンダ病院)

1998年11月(平成10年)アーナンダ病院、開院以来、12年目を迎えました。日本の多くの方々のご支援とインド関係者のご協力によりインドの人々に医療を提供できたことをお礼申し上げます。
開院11周年目の2009年度(平成21年)は2万2500名の患者が訪れ、11年間で23万人の人々に貢献できました。また、JICA草の根技術協力による「保健衛生教育と人材育成」は着々と発展し、最終の3年目を迎えました妊婦、婦人、子供達への衛生知識は普及しております。特に、小



(病室屋上より中庭・正門)

てきました。
今後とも、
よろしくご支
援たまわりま
すようお願い
申し上げます。



(山本理事長・ゆかり先生)

20数年前に、インドを訪れた友人から、インドの多くの人々が、近代医療を受けられず、衛生状態も悪いと聞き、少しでも、インドの皆さんの幸せと健康に役立つ働きをしたいと考えて、インド福祉村病院を作りました。
JICAをはじめ多くの日本の方々のご支援と、インド関係者のご協力で、インドの医療と衛生状態も、少しずつ良くなってきました。



(山本理事長)

インド福祉村病院(現地名 アーナンダ病院)
開院12年目…保健衛生教育最終年
クシナガラ(北インド・UP州)

**みんなの力で
みんなの幸せを**
理事長 山本孝之

これからの課題

柴田昌雄(インド福祉村協会理事)

最近の新聞、テレビはインドの経済成長はめざましく、先進国になるのも間近である様な報道をしております。しかしながらこれは都市部においてのみの現象であります。子どもが活動している北インドの農村部では20年前と殆ど変わらない姿がそこにあります。むしろ都市と農村、貧と富の格差の増大が顕著になっております。

アーナンダ病院が開院してより約12年、医療活動についてはそれなりの成果を示すことが出来たと思っております。しかしこの先病気の発症率や乳幼児の死亡率の低下などを実現させる為には、住民の生活改善が必須の条件です。それは各家庭の収入増加がなくては前に進みません。

これは本当に難しい課題ですが、私どもとしてはアーナンダ病院を中心にして地域ぐるみの経済的向上を図ることが使命の一つと考えております。

皆様方のお智恵をお聞きしながら、出来る事から実行してゆく所存ですので御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

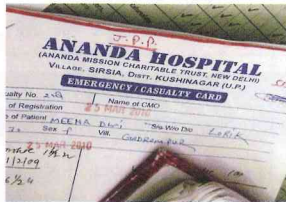
合掌



(手洗い、うがいパンフ)



(マスク使用パンフ)



(JPP無料妊婦診察カード)

【風土病的疾患】

- 1) マラリア
- 2) フィラリア病
- 3) ハンセン病
- 4) カラアザール
- 5) 日本脳炎
- 6) アメーバ赤痢
- 7) 甲状腺腫
- 8) 狂犬病
- 9) 蛇毒
- 10) 象皮病

【来院患者疾患名(上位)】

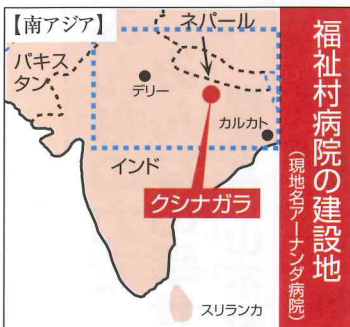
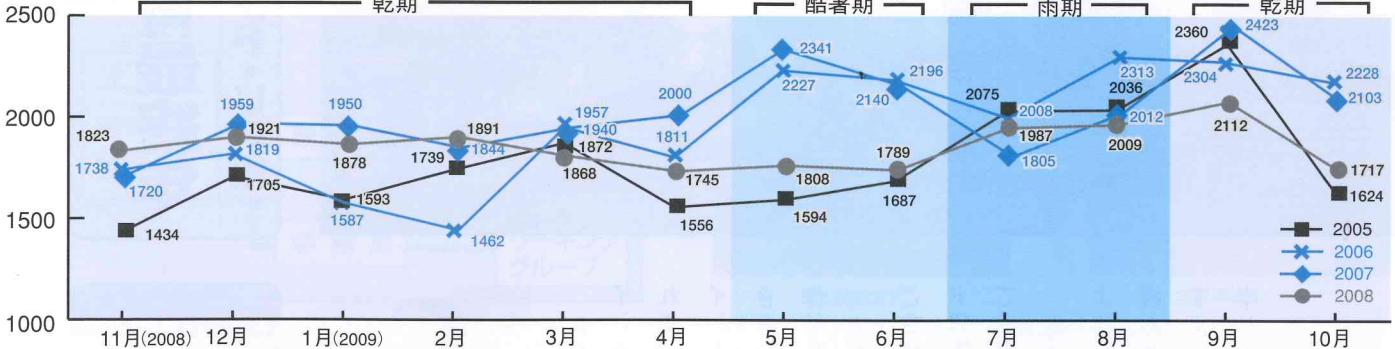
- 1位 気管支喘息
- 2位 胃潰瘍
- 3位 貧血
- 4位 トリコモナス症
- 5位 気管支炎
- 6位 関節リュウマチ
- 7位 ウイルス感染症
- 8位 筋肉痛
- 9位 高血圧
- 10位 肺結核

【患者数】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
総患者	15,310名	21,140名	18,606名	16,910名	20,636名	22,578名
新来患者	6,756名	7,946名	6,247名	5,593名	7,547名	8,191名
再来患者	8,554名	13,194名	12,359名	11,317名	13,089名	14,387名

	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	統計
総患者	21,573名	21,275名	23,650名	24,237名	22,548名	228,463名
新来患者	8,274名	8,143名	9,227名	9,680名	9,217名	86,821名
再来患者	13,299名	12,800名	14,423名	14,557名	13,331名	141,310名
男性 36% 女性 64% 小児 10%						

【総患者数】



(スタッフ全員、2010年正月)

開院11年目のあゆみ

アーナンダ病院院長 P.N.クプタ

日本の皆様のご支援と、福祉村協会のご協力により開院11年目(平成21年度)は、過去最高の2万2548名の患者を診察し、11年間で総計約23万人のインドの人々に貢献することができました。長年の病院職員の努力とインドの人々の信頼が11周年を迎えられた要因で感謝いたしております。

JPP事業ではプロジェクトリーダー加藤伸也先生の献身的な指導のもとにSTAFFが積極的、自主的に保健衛生講習をおこない村民が喜んで参加しております。婦人、妊婦、子供たちの保健衛生教室は2400名の参加、小学校の学生指導は7000名の参加、頭シラミ治療も更に発展、期待されております。12年目は更に親切的診療と保健衛生教育に励む決意です。日本の皆様ぜひインド訪問の折はアーナンダ病院にお越しください。

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL : 91-92354-24671 / 91-5564-217544

住所 : VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

JICA計画JPP事業 インドにおける衛生教育指導

加藤伸也

JICAプロジェクトとして1年間の内、約6ヶ月弱衛生教育指導の為に滞在しました。インドの特に「村」の生活・衛生環境は日本の何年前に想定できるのか、恐らく50年から60年前と思われる。デリーの大都市でも衛生環境は決まるとは言えません。ましてや、「村」では想像を超える所です。インドは「遅れている」、「汚い」、「暗い」等と見るよりは、何十年前の日本を再現していると認識しているのが現状です。表現が正しいかどうかは別にして、歴史上の「後進国 日本」の鏡として捉えています。決して「先進国 日本」の眼で見えてはいけなと強く感じています。このインドも何十年後には素晴らしい国になるでしょう。

その一助に携われたことに感謝しています。「教育」だけでは克服することは困難ですが、「衛生」を考えると総合的な取り組みが必要であろうと思います。どちらにしても、インドに見合った推進をインド人自身が進められるようこれからも援助・助言が必要です。



(婦人・妊婦衛生教育)



(婦人・妊婦衛生教育)

ある日の衛生教育

新しい妊婦さんはこの日はいませんでした。

開始の前に「神戸生協」制作の手洗いDVDを勉強しました。でも、手洗いの画面が大きいと「いいな」が私の注文です。

終わった後は、子供の頭シラミの治療と薬の配布です。

この日は子供14人が来て、陽性は12人でした。青色の服を着て、白いスカーフ?をしている子は、スーマンさんの近所に住む高校生です。高校生はみんなこの服装です。

今日、学校は全部休校と言うことで、わざわざスーマンさんに付いて病院まで来てくれたそうです。そして、子供の名前記載、薬の配布を手伝ってくれました。

この子の他にも、退職した検査技師が毎週土曜、病院にボランティアで検査の仕事に来てくれます。単車で約90分かかります。Drが時々ガソリン代は払っているようです。このような協力者が広がれば嬉しいですね。

JICAの言う「草の根」の芽生えですね。私はさらに「心の根」になることを願います。



(頭シラミ薬の配布)



(神戸生協「手洗いソング」)

妊婦学校と頭シラミ治療

プロジェクトマネージャー
加藤伸也

訪問記

アーナンダ病院で学んだこと

後藤綾(薬学生)

私は10年3月23日〜26日、アーナンダ病院を訪問しました。インドの患者さんや診察の仕方に興味があり、グプタDrの診察に同席しました。

4日間のうち、熱帯性の病気もあつたけれど、高血圧、糖尿病など日本と同じような生活習慣病の症例も多いと感じました。患者さんも、思ったより肉付きのよい人が多い印象を受けました。また、胃炎の患者さんも多かったのですが、辛いスパイスのために起こるのだと聞き、インド特有な原因に納得してしまいました。

グプタDrは、「患者を見ただけでは分からない。触診や聴診して分かる事もたくさんある」と、五感を大いに使って患者さんと向き合っていました。Drを信頼して朝6時に家を出てきたという患者さんもいて、滞在した4日間は驚きの連続でした。

機会があれば再度アーナンダ病院を訪問して、インドの薬品について勉強したいと思います。

今回の経験を生かし、私も心豊かな薬剤師になって人の役に立ちたいと思いました。



(診察室)



(学校訪問)

2009年のあゆみ (H21.4~H22.3月)

09.4月	● JICS(日本国際協力システム)支援金により発電機購入 ● JPP事業第3回日本研修2名 SATISH K, VIKARAMA D ● JICA草の根事業3年度契約完了	11月	● 第8回ワーキンググループ勉強会 (JPP事業検討) ● バザー事業若菜荘他にて実施 武田和敏、岩瀬聖子参加 ● NGO, JICA国際協力カレッジ 大竹参加
5月	● IWVS理事会・通常総会 ● JICA中部名古屋地球ひろば オープンフェスティバル 大竹、加藤参加	12月	● IWVS 理事会 ● 大竹紘一 病院訪問 (JPP事業) ● 山野井純子、母 病院訪問 ● JICA NGO 広報つくる研修会最終 大竹参加
6月	● JICAオープンインド祭り、IWVS事業 (アーナンダ病院)発表 柴田昌雄、大竹、加藤、サクシーナ参加 ● NGOナゴヤ、JICA 広報を造る 研修会 大竹、加藤参加 ● 第7回ワーキンググループ勉強会 (JPP事業検討)	10.1月	● JICA ND 沼澤まり子 病院訪問 ● AMCT理事Kumar氏退職Pant氏就任 ● 初診料 10Rs、X-P 75Rs、ECG 75Rs、エコー 80Rs 変更 ● 加藤伸也(JPP PM)病院訪問 (JPP事業) (長期滞在)
7月	● JICA中部 開設式 柴田昌雄参加	2月	● 新臨床検査技師採用 Abhay K,S.氏 ● JICA PCM研修会 大竹参加
8月	● 大竹 病院訪問 JPP事業検討、指導 ● ND JICA山田次長、NEC8名、杉野美礼 病院訪問 ● DR GUPTA 次男生まれる	3月	● JICA ネットワーク連絡会 大竹参加 ● 中村義博、吉田晃、後藤綾 病院訪問 ● DR GUPTA 家族ゴラブル家 移転 ● IWVS理事会 臨時総会 ● 加藤伸也(JPP PM)帰国 (敬称略)
9月	● 加藤伸也(JPP PM)病院訪問 (JPP事業)長期滞在 ● 北見真帆(医師)病院訪問 ● IWVS理事会		
10月	● JICA NGO 広報研修会 3折パンフ作成 ● 中村義博 病院訪問		



(グプタ医師診察)



(学校教育)



(学校教育)

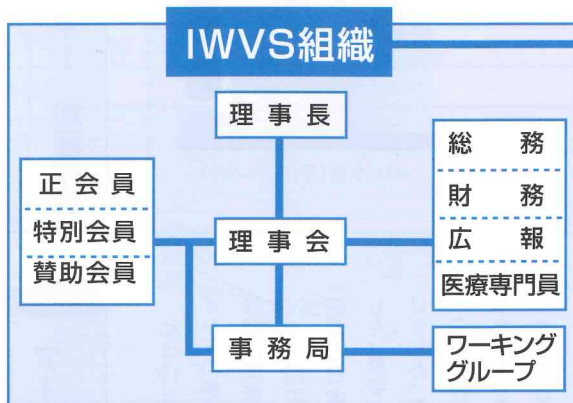
認定特定非営利活動法人
(認定NPO)

インド福祉村協会

(IWVS)

インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就学児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院(アーナンダ病院)を開設、運営を行っています。

ホームページ <http://iwvs.web.infoseek.co.jp>



現地法人 ANANDA MISSION CHARITABLE TRUST

インド福祉村病院(アーナンダ病院)^{*}

^{*}アーナンダ:お釈迦様の高弟の一人



(涅槃堂)



(お釈迦様)

入会のお願い

正会員: 年会費 5,000円 …… 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。
特別会員: 100,000円(一〇以上) 代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。
賛助会員: 年会費 1,000円(一〇以上) 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

【会費・寄附の支払い方法】

郵便振替 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。
 ご一報いただければ用紙をお送り致します。また、入金が確認されましたら領収書を送らせていただきます。寄附金は、税制上の優遇措置が受けられます。

郵便振込 (口座番号) 00830-2-65008 (加入者名) インド福祉村協会
銀行振込 ゆうちょ銀行 (口座番号) 12120-68672771 (加入者名) インド福祉村協会

募金のお願い!

少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)
 理事長/山本孝之 専務理事/高木元昊 常務理事/大竹紘一
 理事/柴田昌雄、中村義博、田中久子、K・L・バハール、樋口恵子
 事務局長/武田和敏
 ホームページ/<http://iwvs.web.infoseek.co.jp> E-mail/iwvs@post.sala.or.jp

■ 発行者 インド福祉村協会 (IWVS)
 ■ 発行人 大竹紘一 加藤伸也 ■ 編集 文創社
 ■ インド福祉村協会事務局 (若菜荘内)
 〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字山中19-12
 TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365